

本の楽しさを味わい、言葉の力をつけるための取り組み —継続的な読書活動を通して—



市川市立国分小学校
いとう ちひろ
教諭 伊藤 千尋

目標

- ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。……知技(1)オ
- ・文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつことができる。……思判表C(1)オ

読書に親しみながら語彙を豊かにするために

本活動は、読書に親しみながら語彙を豊かにするために、モジュール学習の時間を活用し、通年で取り組む活動です。児童は、「この文いいな」「どうしてかな」「自分と同じ」の三つの読み方で本を読み、その中から一つを選んで、自分の考えを読書カードに記録します。そして、読書カードの中から紹介したい本を選び、印象に残った文や言葉、自分の考え、文や言葉から想像したイラストを紹介カードに書きます。この活動を通して、言葉や文に注目して読む力を育てます。

活動の進め方

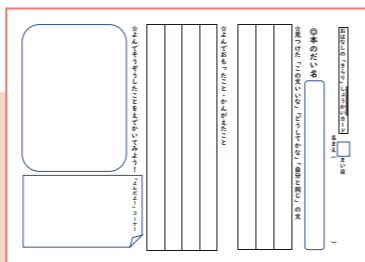
はじめに 本と出会う

読書カードにリストアップされている本を、教師が1冊読み聞かせします。読み聞かせする本は、児童の実態に合わせて、内容、挿絵、文字数などに留意しながら全員が楽しめる本を選びます。読み聞かせ後に、読書カードを配り、ブックトラックに乗せた本を児童に見せます。本の表紙を見せたり、お話の始まりを少し読んだりして、それぞれの本を紹介しながら、本への関心を高めます。

▲ 読書カードの例

ステップ1 本を読み、読書カードに自分の考えを書く

読書カードの中から本を選び、読書をします。本を読み終えるごとに、三つの読み方の中から一つを選んで、自分の考えを読書カードに書きます。教師は、定期的に読書カードを集めて一人一人の読書状況を確認し、たくさん読んでいる児童には新しい本を紹介したり、あまり読んでいない児童には一緒に読む時間をとったりするなどの支援をします。



▲ 紹介カードの例

ステップ2 紹介カードを書く

読書カードにリストアップしてある本を、複数冊読み進めてから、紹介したい本を1冊選び、紹介カードを書きます。

ステップ3 友達が紹介した本を読む

友達が紹介した本を読み、紹介カードにある「『よんだよ!』コーナー」にシールを貼ります。紹介カードは学年で共有できるように、廊下などに掲示するとよいでしょう。



指導にあたって

読書カードについて

「読むこと」の学習を日々の読書へとつなげ、読み聞かせ中心の読書生活から一人読みへ誘うために、読書カードの作成は有効です。私の実践では、「読むこと」(文学的な文章)の単元に合わせた本を、教師が30~50冊ほど選び、読書カードにリストアップして、単元ごとにカードを配付しました。読書が苦手な児童にとっては、読書カードが読む意欲を高めることにつながり、読書が得意な児童にとっては、新たな本を知り、読書の世界を広げるきっかけになります。

言葉の意味を守れ、リライト道場



小金井市立本町小学校
むらた ひろし
主任教諭 村田 宏史

目標

- ・語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。……知技(1)オ
- ・文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係について理解することができる。……知技(1)カ

子どもの語彙を豊かにするために

本活動は、「文の意味を保ったまま、別の言い方に言いかえる」学習です。教師が提示した課題文を読み、意味を保ったまま、語句を置きかえたり、語順や言い回しを変えたりして新しい文を作ります。そして、言いかえた文が元の文と同じ意味になっているかを確認し、必要に応じて修正します。

生成AIを活用できる場合は、文の意味を保って言い換えられたかをAIによって判定し、結果の可視化と即時フィードバックを行います。時間内に何度も書き直せるような、試行錯誤できる環境を保障することで、児童の思考の幅は飛躍的に広がります。また、正解判定ごとに1ポイントとするなど、得点化することで児童の学習意欲を高めます。生成AIを用いない場合は、必要に応じて書き直す時間とったあと、児童どうして読み合っポイントをつけるという方法で、同じような学習を行えます。

本活動は、モジュール学習や授業冒頭の時間などを使い、年間を通して取り組むことを想定しています。文脈に応じて適切に言い換えられるような力をつけるために、いろいろな表現の仕方があることに気づいたり、使える語彙の量を増やしたりすることを目的としています。児童は、文の意味を確認し、その意味を保ちながら別の表現に言い換える過程で、語句のはたらきや語感の差に意識を向けるようになります。

学習活動の流れ(15分で行う活動の例) ※生成AIを活用する場合

時間	学習活動	指導上の留意点
5分	○活動内容の見通しをもつ。 ○課題文を読み、文の構成や、文の言い換えられる部分と固定すべき部分を確認する。 ○言い換えの作戦を確認する。	○課題文を提示し、主語と述語や文の接続、文末表現などを確認する。 また、文の意味を保つために固定すべき部分を確認する。 ○語句の置きかえ、語順の入れ替え、文の分割(合体)という作戦(※「指導にあたって」を参照)があることを提示する。
5分	○言い換え文を作成し、AIに送信する。AIからのフィードバックをもとに修正する。(繰り返し行う。)	○言い換え文の作成が難しい児童には、言い換えられる単語を示す。 国語辞典などを用いて、単語や語句を調べてもよいと伝える。
5分	○AIの判定が適切か、自分自身または友達どうして確認する。 ○学習を振り返り、今日使った作戦とそのよかった点、次回使いたい作戦を考える。	○AIの判定を絶対とせず、児童どうして判定の理由を確認合うよう促す。 ○児童自身の取り組みぐあいや悩んだ点、新しく獲得した言い回しや語彙などを、短時間で振り返らせる。

指導にあたって

言い換えの作戦について

文を言い換えるための作戦として、次の三つを提示します。

- ① 語句の置きかえ作戦…例「太郎は先生にほめられて、自信がわいた。」→「太郎は先生にほめられて、自分にもできると思えた。」
- ② 語順の入れ替え作戦…例「太郎は先生にほめられて、自信がわいた。」→「先生が太郎をほめたことで、太郎は自信がわいた。」
- ③ 文の分割(合体)作戦…例「少年は不安だったが、走り出した。」→「少年は不安だった。それでも走り出した。」

実際に取り組む際は、活動を重ねながら児童とともに作戦を練り、児童から出た言葉で、作戦を共有できるとよいでしょう。

学習の積み上げと課題文について

年間を通して継続して実施しながら、課題文を段階的に変えていくことで、学習の積み上げを目ざします。めやすとして、1学期は短文での語句の置きかえや語順の入れ替えを中心に扱います。2学期は、因果や条件の表現を含む2、3文へと発展させ、情報を落とさずに言い換える力を育てます。3学期は、主張と根拠を含むような文のまとまりや、長い文章を扱います。